

6. 南西流による大雨

第1表で前線・低気圧・南西風として分類した大雨で、地上天気図の特徴は、前線や低気圧が九州の中部以北にあることである。

季節的には6・7月の梅雨期に多く、西九州で梅雨末期の大雨として恐れられているものである。

この種の大雨は、宮崎県では霧島山周辺を中心とした地域で起こる。

第4図、第6図と同様に16例について、大雨の出現率分布図を作ると、第7図のとおりで、沿岸部や北部では200mmを越えることはほとんどない。

7. まとめ

宮崎県の大雨（県内のどこかで日降水量200mm以上）は気圧配置と鹿児島の上層風によって三つに分類することができる。しかも、それぞれの雨量分布に顕著な差違があることを述べた。

現在の雨量予報の精度では、注意報・警報をタイミング良く発表することが困難な場合も多い。とくに、宮崎県では低層の偏東風による大雨は、気圧配置や鹿児島の上層風などから、いわゆるポテンシャル予報はある程度可能であるが、いつ・どこでといった具体的な予報は極めて困難である。これらの対処策としては、ポテンシャル予報で情報を発表し、以後は雨量分布の特徴から降雨実況を重点的に監視して、注意報・警報のタイミングを遅らせないよう努めることが考えられる。

終りに、当って終始御べんたつ・御指導下さった宮崎地方気象台長三浦武臣氏、調査を手伝って頂いた鈴木宗徳予報官始め職員の皆さんに感謝の意を表します。

参考文献

気象庁、1967：全国降水量資料

藤原賞・朝日学術奨励金・山路自然科学賞 の候補者推薦について

常任理事会

気象学会が毎年定期的に他団体より推薦を依頼される賞および奨励金の一覧表は、天気17巻5号230頁に掲載されています。現在第12回藤原賞受賞候補者の推薦依頼と推薦用紙が事務局に届いています。昭和46年3月までに締切られるものが下のように三件ありますので、そのいづれかに推薦を希望する会員又は他会員を推薦しようとされる会員は、**昭和46年1月15日までに**担当常任理事 北川信一郎（浦和市下大久保 255 埼玉大学理学工学部 電話 0488-32-2116）に申出下さい。

名称	授与を行なう団体	賞又は奨励金を受ける対称と内容	締切期日
藤原賞	(財) 藤原科学財団	理学、工学、農学、医学の各部門での研究者個人（共同研究者をあげなければならないときはその理由を明記する）賞状、賞牌および副賞 500万円	昭和46年2月28日
朝日学術奨励金	朝日新聞社	自然科学および人文科学の研究に従事する個人、グループまたは団体、昭和44年度は7研究合計 942万円	昭和46年2月23日
山路自然科学奨励金	(財) 山路ふみ子自然科学振興財団	理学、工学、農学、医学の分野において学術上の研究業績が特に優秀で、年齢50歳未満のもの賞牌および副賞 100万円	昭和46年3月25日